



# もぐもぐ大作戦

～食品ロスの削減～

大阪府立富田林高等学校 チームもぐもぐ

## 1.みどり戦略との関連性

(4)環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

チームもぐもぐはフードバンクや子ども食堂、フードドライブの知名度を拡大することで食品ロスを減らすことを目的としているので上記のみどり戦略と関連している。

## 2.目的・背景

探究の授業の一環でSDGsについて知り、興味を持ったため理解をを深めようと思った。

班員の自宅付近に子ども食堂があることを知り、富田林に南河内初のフードバンクつながりフードサポートセンターができたことにより興味を持った→子ども食堂に関連したことを探究することに

## 3.取組内容・結果

### ①子ども食堂

富田林市立コミュニティセンターかがりの郷にて、こども食堂が開催され、ボランティアとして参加した。今回のこども食堂は小学生から高齢者までの幅広い年代の方々約60名に利用されていた。これらの食料はつなサポや富田林社協から提供された。



図1：子ども食堂で提供されたカレー、ハンバーグ

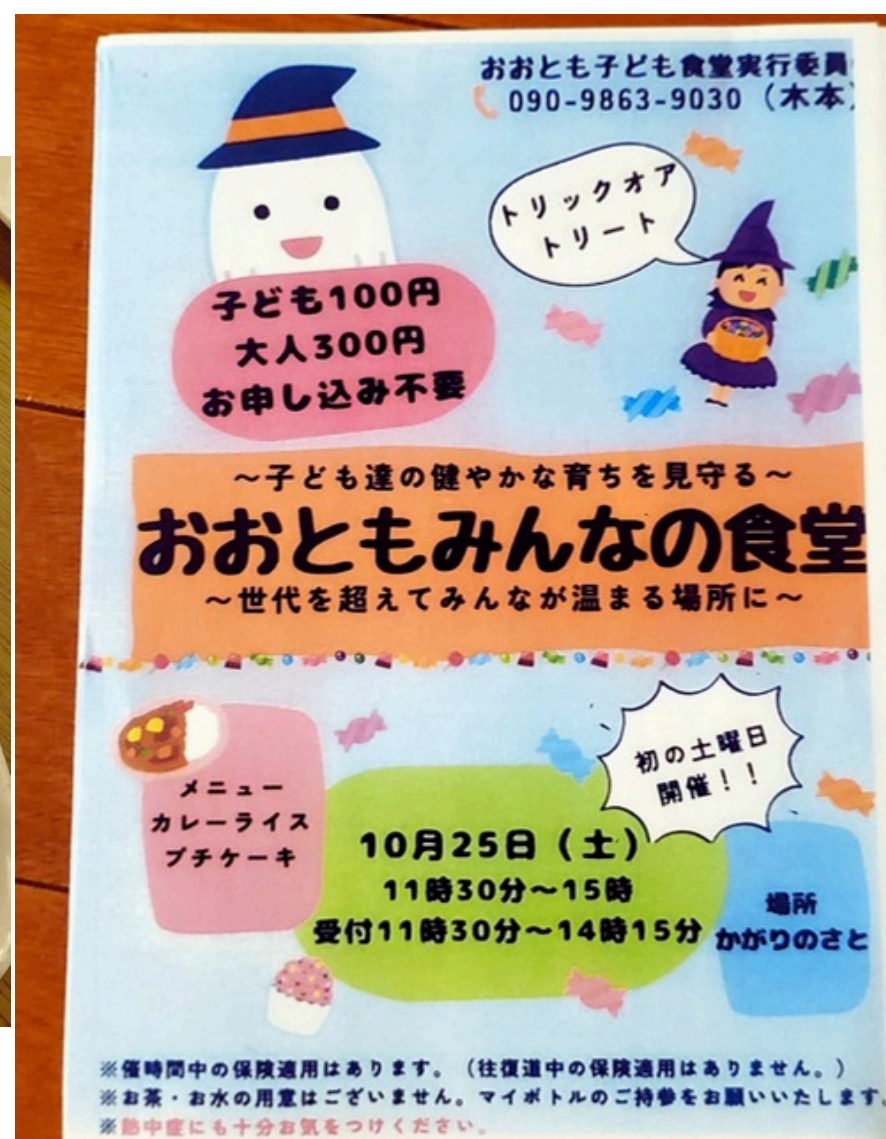


図2：子ども食堂を周知するためのチラシ

### ②フードドライブ活動

校内で3日間食料を集めクッキーや鏡餅、春雨スープなどの各家庭で余っている食材が集まった。集まった食料はつながりフードサポートセンターに寄付した。食料は貧困地帯などの希望する人に渡された。



図3：フードドライブ活動で回収した食料

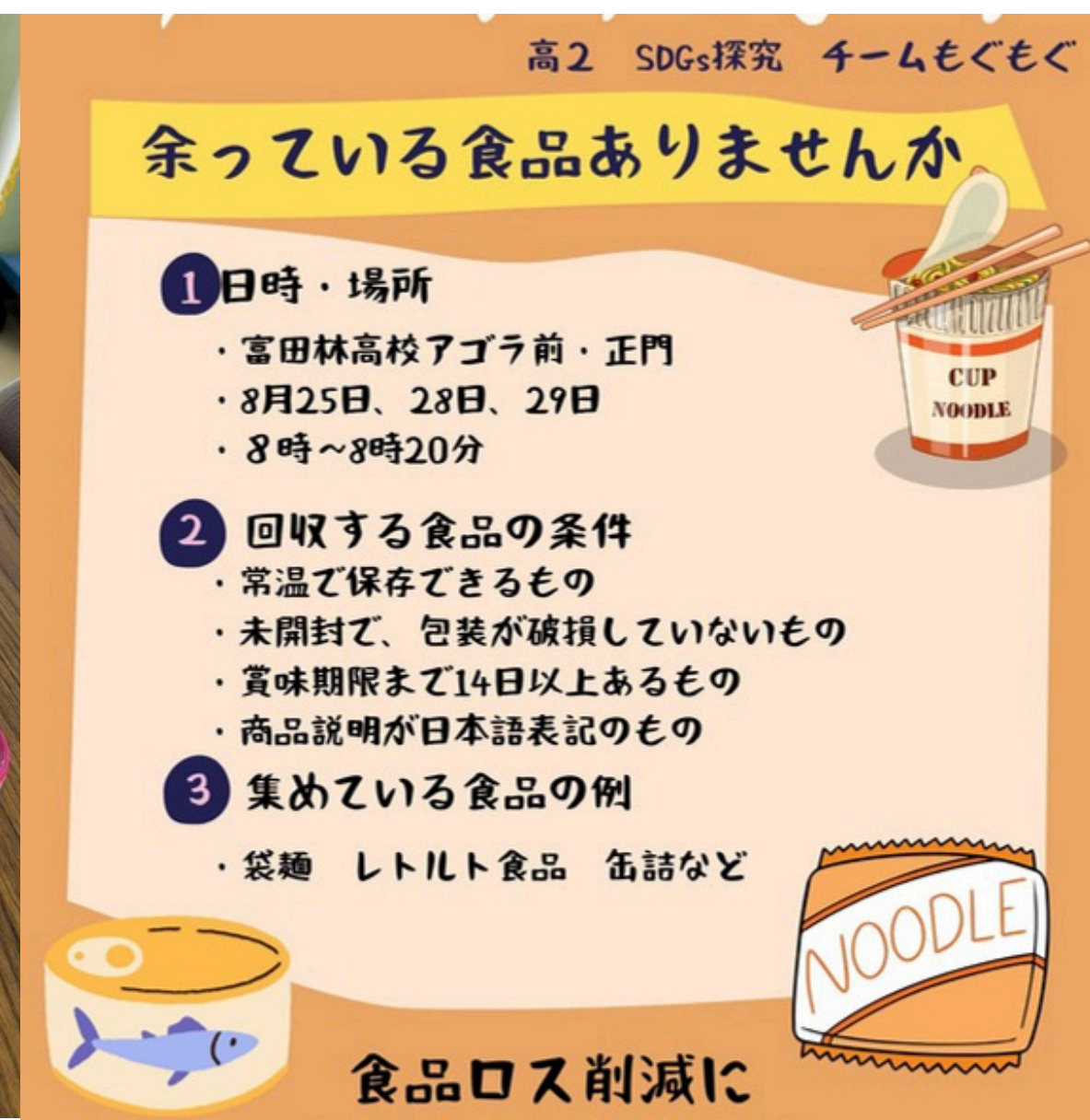


図4：フードドライブ活動をする際に作成したポスター

### ③アンケート結果

探究活動前のアンケート(5月)と後(11月)の比較  
フードバンクの認知度

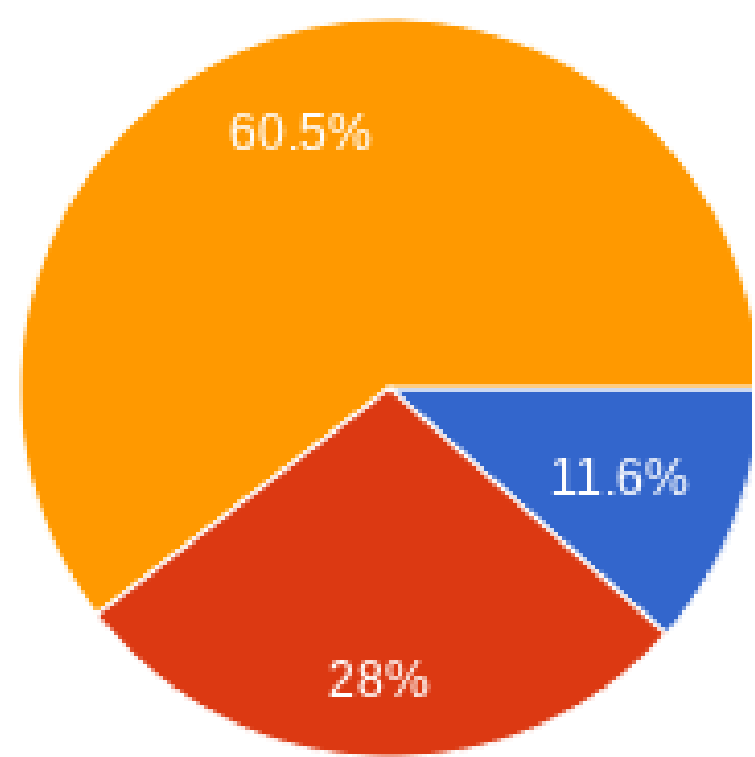


図5：フードバンク認知度5月

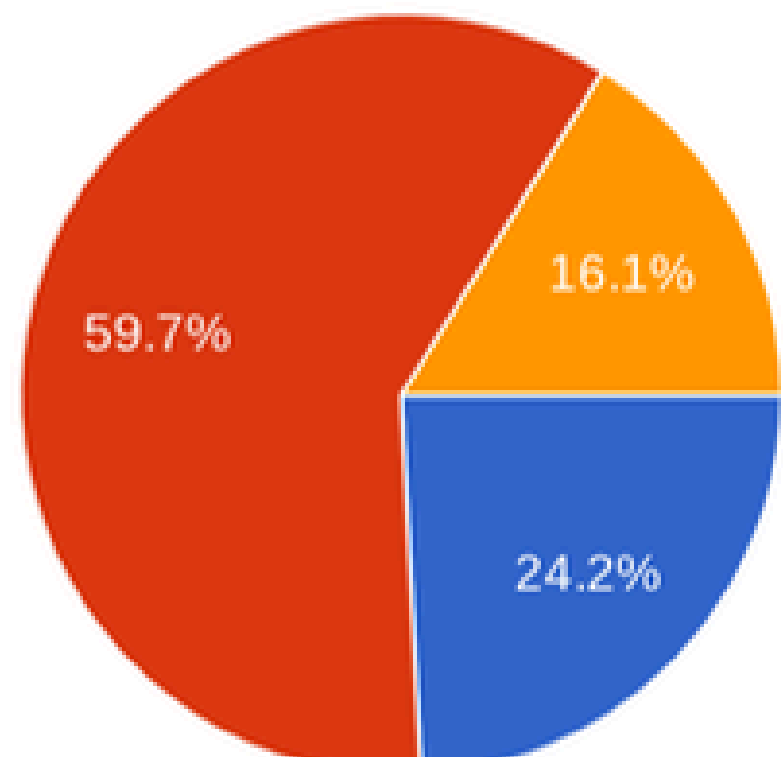


図6：フードバンク認知度11月

5月は●の人が過半数を占めていたが、11月は2割以下に減らすことができた。だが●の割合が増えて半数以上を占めることになり、これからもフードバンクの内容を周知していく必要があると考える。●も全体の4分の1程度まで増えた。

## 4.感想・まとめ

以上のグラフから分かる通り学校での広報、食品収集活動を通じて多くの人に知ってもらい、子ども食堂の認知度を増やすことができた。身近なところで発生するフードロスをなくすために、地道ではあるが、さらに効果的で持続的な方法を見つけつつ今回校内で行ったような必要なところに必要な分食品を届けられるフードドライブ活動を続け、課題である食品ロスの削減につなげたい。

### 子ども食堂の認知度

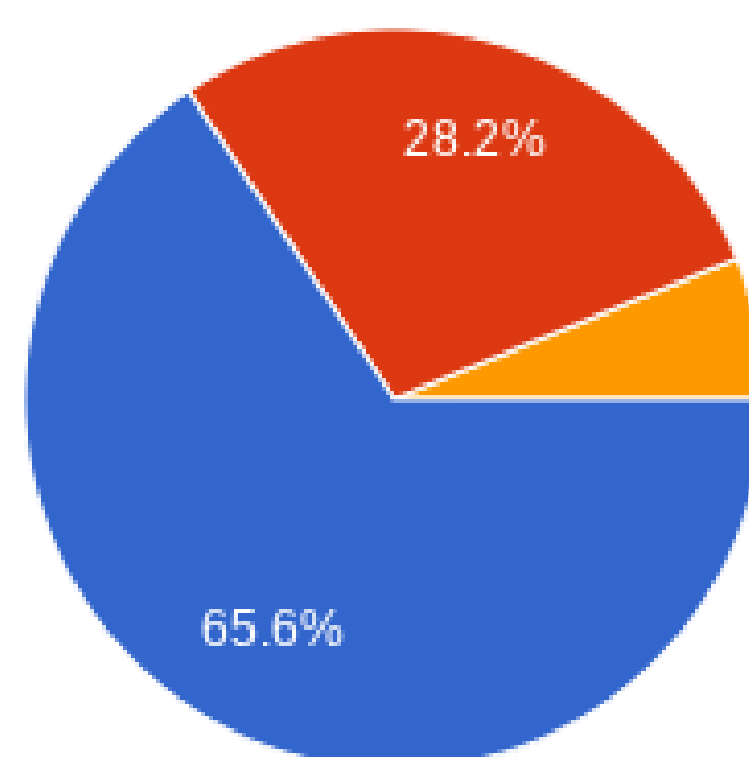


図7：子ども食堂認知度5月

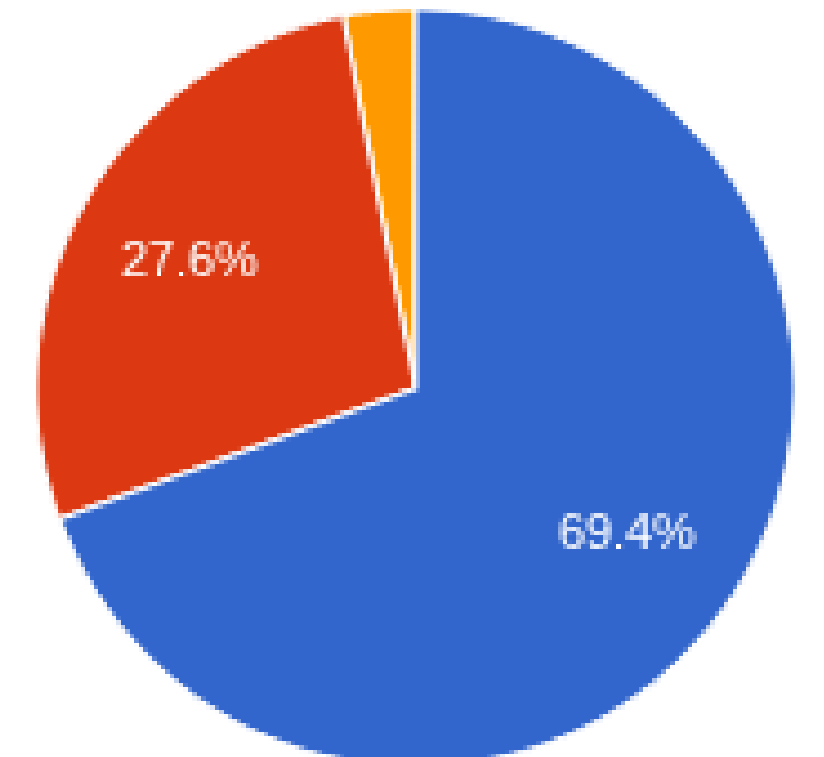


図8：子ども食堂認知度11月

5月にとったアンケートからすでに知っている人が多く全体的には大きな変化はなかったが、●は3.8%増えて、●は0.6%減っていた。また●は約6%→約3%に減った。このグラフから私たちの活動によって子ども食堂の認知度が増えたと考える。